

令和4年度プロジェクト課題概要

令和4年3月7日
美里農業改良普及センター

課題名	計画期間	対象 (農家・地域等)	概要	課題名	計画期間	対象 (農家・地域等)	概要
<p>1 土地利用型農業法人の早期経営安定 (継続) 「中間管理事業」関連課題</p>	<p>令和3年度～4年度</p>	<p>(農)おさとファーム (役員5人) (涌谷町)</p>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農事組合法人おさとファームは、令和元年9月に組合員15人で設立され、経営面積は令和3年度実績で、水稲5.5ha,大豆11.6ha,小麦19haの計36.9ha(うち2毛作5ha)である。 5人の理事を中心に法人運営を行っているが、理事の平均年齢が70歳と高いことから、次世代への経営継承を視野に入れ、経営を早期に軌道に乗せて持続的な法人経営が可能となるよう、中長期経営計画の整理・具体化が必要である。 令和3年度は役員を対象に法人会計勉強会を全3回行い法人経営スキル向上を図った。その後資金繰り表の検討を行い、資金の流れについて役員全員の理解を進めたことにより、単年度収支計画が作成された。令和4年度は中期経営計画の作成を支援する。 法人の基幹作物である大豆や麦の栽培経験が少ないことから、令和3年度は生育調査ほを設置し、適期作業指導と併せて、生育の数値化を示し、栽培基本技術の習得と来年以降の生産計画策定を支援した。大豆生産上、湿害対策が課題であることから、令和4年度は表面排水対策を中心とした技術指導を行う。 <p>【主な活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人経営管理技術向上支援 →中期経営計画策定支援、作業計画策定支援等 転作作物の栽培技術向上支援 →大豆ほ場準備支援(排水対策)、栽培管理指導等 	<p>3 土地利用型農業法人が取り組む加工業務用のにんじんの生産安定 (新規) 「園芸振興」関連課題</p>	<p>令和4年度～5年度</p>	<p>(農)タカギ農産 (農)中埜ファーム 育み (農)中田アグリ (農)サンファーム あがと (農)みらいす青生 (5経営体) (美里町)</p>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年産米価格の大幅下落を受けて、農業者の経営安定のために露地園芸作物への一層の転換が推進されている。 美里町内の土地利用型農業法人が加工業務用のにんじんを契約出荷により生産する取り組みが令和元年度から始まっている。年々取組面積は増加しており、令和3年度の作付面積は延べ6.0haとなっている。中埜地区の4法人については土地利用計画策定や共同作業などで連携した動きも見られている。 にんじんは比較的、水稲や大豆と作業競合しない作業体系を組みやすく、加工業務用途は出荷規格が簡素で確実な販売が見込めるため、収入源として有力である。 美里町総合計画では10ha規模の土地利用型野菜及び5ha規模の施設園芸を令和7年までに3品目とする指標を掲げており(現在2品目)、にんじん生産の拡大が期待されている。 ほ場の排水対策による湿害回避、肥大性があり割れにくい品種の選定など、水田転作及び加工業務用途に適応した生産技術の向上を図る必要がある。また、天候の影響を受けることが多いため、適期播種や病害虫防除の重要性が増してきている。 水田転作による野菜生産の取組として地域への波及効果が期待される。 <p>【主な活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術向上支援 →病害虫対策、土壌環境調査等 栽培体系確立支援 →品種検討実証、生育確認調査、現地検討会等
<p>2 蔵元のニーズに対応した「吟のいろは」の品質向上と栽培定着 (新規) 「持続可能な農業・農村構築」関連課題</p>	<p>令和4年度</p>	<p>松山町酒米研究会 (「吟のいろは」 生産者14人) (大崎市松山)</p>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「吟のいろは」は心白発現、収量性が良いという特徴を持ち、県優良品種ではないものの、酒造好適米として県でも需要拡大を期待している品種である。 県内24蔵元中22の蔵元が原料として使用している。 生産者、実需者それぞれが、より高品質な米や酒を作ろうと模索している段階であるが、実需者からは原料米の品質の均一化を求める意見が出ている。 松山町酒米研究会では、求められる原料米の品質を確保するため、土づくりや肥培管理等について研究を重ねている。 栽培面では、2年間展示ほを設置し、肥培管理の指導とデータ収集を行った。令和3年度は千粒重が重い充実した米になった一方で、籾数過剰等による青未熟の発生や倒伏が落等の要因となった。 展示ほ等の生育、品質等の結果を踏まえ、令和4年度に向けた栽培マニュアルを作成した。令和4年度は新たに取り組む生産者の支援に留意しながら、各生産者がマニュアルに沿った栽培を実践し、適正籾数の確保や品質の改善に向け検討を重ねていくことがさらに重要となる。 コロナ禍で日本酒の消費が減少している中、令和4年度の「吟のいろは」の需要は増加が見込まれている。消費の増加及びそれに伴う栽培面積拡大のためには、「吟のいろは」に対する実需者の理解を深め、需要に結びつけていくことが重要である。 <p>【主な活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培管理技術確立支援 →展示ほ設置、運営、収量等調査結果まとめ、生産者への伝達、現地検討会等 関係機関と連携した交流・PR活動 →関係機関との連携、研究会情報発信支援、実需者と生産者の交流促進等 	<p><参考></p> <p>令和4年度 重点活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 新規就農者の確保・育成に関する取組 【新規就農】 対象: 新規就農者, 農業研修生, 教育機関, 学生 グリーンな栽培体系への転換 【園芸重点】 対象: JA新みやぎみどりの地区ほうれん草協議会 持続性の高い施設園芸の推進 【園芸重点】 対象: JA新みやぎ仙台小ねぎ部会 地域農業担い手の組織化・法人化と経営安定に関する取組 【農業経営管理】 対象: 法人化に取り組む集落営農組織等, (農)おおぬき彩土里ファーム 「金のいぶき」による地域活性化に関する取組 【地域実情】 対象: 「金のいぶき」生産者 			



【役員会での経営支援】



【収穫直前のにんじん】



【収穫されたにんじん】



【生産者と一緒に行う生育調査】



【作柄検討会の様子】

